

一般社団法人日本医療薬学会
2023年度第1回定例理事会 議事録

一．開催日時：2023年3月2日（木）13時00分～16時45分

二．開催場所：ハイブリッド開催（事務局会議室+Zoomを利用したウェブ会議）

三．出席者

会頭：山本 康次郎

以下の出席者は、Zoomを利用したウェブシステムにより参加した。

副会頭：石井 伊都子、寺田 智祐、百瀬 泰行

理事：池田 龍二、石澤 啓介、伊藤 清美、齋藤 秀之、

佐野 俊治、関根 祐子、田崎 嘉一、豊見 敦、中村 敏明、花輪 剛久、
濱浦 健司、宮崎 長一郎、村木 優一、矢野 育子

監事：奥田 真弘、望月 眞弓、安原 真人

顧問：武田 泰生、和田 一夫

年会長：三浦 昌朋（第33回年会）、本間 真人（第34回年会）

陪席者

事務局：星 隆弘、姫嶋 直子、針生 裕子、田中 結寿

欠席者

理事：佐藤 淳子、富岡 佳久

顧問：山本 信夫、五十嵐 邦彦

四．議長：山本 康次郎

五．会議の成立

定刻において、議長より開会が宣言され、本理事会は理事18名の出席があり、定款第38条に定める定足数を満たしており、適法に成立している旨が報告された。

六．議事の経過の概要及びその結果

1．2022年度第6回定例理事会議事録の確認

議長より、昨年12月27日に開催された2022年度第6回定例理事会の議事録を基に議事内容が確認され、修正等がある場合には本理事会終了時までに指摘するよう要請があった。

2．協議事項

(1) 第15回定時社員総会資料の確認

1) 2022年度事業報告（案）

事務局より、本年3月18日に開催する第15回定時社員総会（以下、本総会）の資料（案）を基に、2022年度事業報告（案）の概要が説明された。協議した結果、本事業

報告案は了承され、本総会に諮ることとした。

2) 2022 年度決算報告（案）

石澤理事より、本総会資料及び別冊(補足資料)を基に、2022 年度決算報告(案)が説明され、昨年度もコロナ禍が継続したためオンライン会議が数多く、対面開催による会議費や交通費などの支出が少ない決算となつたこと、第 32 回年会の決算処理が完了せずに継続しているため、本決算には途中段階のものが計上されていること、また開催会場の変更に伴うキャンセル料やハイブリッド開催に伴う機材等に係る費用負担が増えたことより学会全体の一般正味財産増減額が対前年比で減少となつたことなどが報告された。協議した結果、本決算報告案は了承され、本総会に諮ることとした。

(2) 2022 年度監査報告

安原監事より、本年 2 月 15 日に実施した 2022 年度監事監査に基づき監査報告があつた。充実した活動が認められたこと、また、特段の指摘事項がない旨の報告があつた。

(3) 第 15 回定時社員総会当日運営の確認

事務局より、社員総会の議事次第及び当日の運営内容について説明があり了承された。

(4) 2022 年度各専門薬剤師制度における認定審査結果

1) 医療薬学専門薬剤師制度（新規：指導）、（更新：専門・指導・研修施設）

花輪理事より医療薬学専門薬剤師認定委員会における医療薬学専門薬剤師制度の各認定審査結果に係る説明があつた。

1)-1 医療薬学指導薬剤師（新規）

医療薬学指導薬剤師の新規認定申請に40名（うち1名が申請取り下げ）より申請があり、医療薬学専門薬剤師制度規程及び同細則に基づき書面審査を実施した結果、38名を合格、1名を不合格と判定したことが説明された。協議した結果了承された。

1)-2 医療薬学専門薬剤師（更新）

医療薬学専門薬剤師の更新申請に318名、更新保留申請に4名より申請があり医療薬学専門薬剤師の更新要件に基づき審議した結果、全318名の更新と全4名の更新保留が認められると判定したことが説明された。協議した結果了承された。

1)-3 医療薬学指導薬剤師（更新）

医療薬学指導薬剤師の更新申請に 186 名、更新保留申請に 2 名より申請があり医

療薬学指導薬剤師の更新要件に基づき審議した結果、全 186 名の更新と全 2 名の更新保留が認められると判定したことが説明された。協議した結果了承された。

1) -4 医療薬学専門薬剤師研修施設（更新）

医療薬学専門薬剤師研修施設の更新申請に 46 施設より申請があり医療薬学専門薬剤師研修施設の更新要件に基づき審議した結果、全 46 施設（基幹施設）の更新が認められると判定したことが説明された。協議した結果了承された。

2) がん専門薬剤師制度（新規：指導）、（更新：専門・指導・研修施設）

池田理事よりがん専門薬剤師認定委員会におけるがん専門薬剤師制度の各認定審査結果に係る説明があった。

2)-1 がん指導薬剤師（新規）

がん指導薬剤師の新規認定申請に 29 名より申請があり、がん専門薬剤師制度規程及び同細則に基づき書面審査を実施した結果、28 名を合格、1 名についてはがん専門薬剤師としての活動実績が記載不充分のため、再提出を求めた上で認定の可否を判定することが説明された。協議した結果了承された。

2)-2 がん専門薬剤師（更新）

がん専門薬剤師の更新申請に 93 名（うち過渡的措置対象者 2 名）、更新保留申請に 2 名より申請があり、がん専門薬剤師の更新要件に基づき審議した結果、75 名（うち過渡的措置対象者 1 名）の更新と 2 名の更新保留が認められると判定したこと、1 名は継続審議中、9 名はがん患者に対する薬学的介入の症例サマリ（20 症例）に誤字・脱字が散見されたため再提出を求めて再審査を実施すること、8 名（うち過渡的措置対象者 1 名）を不合格と判定したことが説明された。協議した結果了承された。

2)-3 がん指導薬剤師（更新）

がん指導薬剤師の更新申請に 27 名（うち過渡的措置対象者 5 名）より申請があり、がん指導薬剤師の更新要件に基づき審議した結果、全 27 名の更新が認められると判定したことが説明された。協議した結果了承された。

2)-4 がん専門薬剤師研修施設（更新）

がん専門薬剤師研修施設の更新申請に 23 施設より申請があり、がん専門薬剤師研修施設の更新要件に基づき審議した結果、全 23 施設（基幹施設 22 施設、準ずる施設 1 施設）の更新が認められると判定したことが説明された。協議した結果了承された。

3) 薬物療法専門薬剤師制度（新規：専門・指導）、（更新：指導・研修施設）

関根理事より薬物療法専門薬剤師認定委員会における薬物療法専門薬剤師制度の各認定審査結果に係る説明があった。

3)-1 薬物療法専門薬剤師（新規）

2022年度第6回定例理事会において再審査（症例に係る継続審査を実施）とすることが承認されていた薬物療法専門薬剤師の新規認定申請者6名から症例の再提出があり、再審査を実施した結果、全6名を合格と判定したことが説明された。協議した結果了承された。

3)-2 薬物療法指導薬剤師（新規）

薬物療法指導薬剤師の新規認定申請に8名より申請があり薬物療法専門薬剤師制度規程及び同細則に基づき書面審査を実施した結果、全8名を合格と判定したことが説明された。協議した結果了承された。

3)-3 薬物療法指導薬剤師（更新）

薬物療法指導薬剤師の更新認定申請に12名より申請があり、薬物療法指導薬剤師の更新要件に基づき審議した結果、全12名の更新が認められると判定したことが説明された。協議した結果了承された。

3)-4 薬物療法専門薬剤師研修施設（更新）

薬物療法専門薬剤師研修施設の更新認定申請に112施設より申請があり、薬物療法専門薬剤師研修施設の更新要件に基づき審議した結果、全112施設（基幹施設110施設、連携施設2施設）の更新が認められると判定したことが説明された。協議した結果了承された。

(5) 各専門薬剤師制度規程、同細則の改正

石澤理事より、各専門薬剤師認定制度規程、同細則及び地域薬学ケア専門薬剤師認定制度規程細則を、より分かりやすい記載にするために文言を変更することが説明された。協議した結果、了承された。

(6) 薬物療法専門薬剤師、地域薬学ケア専門薬剤師の各研修ガイドライン・コアカリキュラムの改訂

石澤理事より、薬物療法専門薬剤師と地域薬学ケア専門薬剤師の両制度の各研修コアカリキュラム及び同ガイドラインに、薬剤耐性（AMR）に関する事項を追加する改訂理由が説明された。協議した結果、了承された。

(7) がん専門薬剤師研修ガイドライン・コアカリキュラムの改訂

池田理事より、がん専門薬剤師研修ガイドライン及びコアカリキュラムに、がんゲノム医療とがん遺伝子検査に関する事項を追加する改訂理由が説明された。協議した結果、了承された。

(8) 医療薬学専門薬剤師・同指導薬剤師の英語名の設定

花輪理事より、医療薬学専門薬剤師・同指導薬剤師の各英語名称案が提示され、協議が行われた結果、再考の必要性が示唆され、改めて医療薬学専門薬剤師認定委員会で再検討されることとなった。

<医療薬学専門薬剤師英語名称案>

Board certified Clinical Pharmaceutical Scientist (BCCPS-JSPHCS)

<医療薬学指導薬剤師英語名称案>

Board certified Senior Clinical Pharmaceutical Scientist (BCSCPS-JSPHCS)

(9) 第37回年会長候補者の推薦

百瀬副会頭より、第37回日本医療薬学会年会の年会長候補者として大井一弥 氏（鈴鹿医療科学大学 教授・薬学部長）を推薦すること、また本件については同一県内に所属する三重大学医学部附属病院の岩本教授・薬剤部長より全面的な協力が得られていることが説明された。協議した結果、了承された。

(10) 2023年度医療薬学公開シンポジウムの開催計画

伊藤理事より、2023年度の医療薬学公開シンポジウムの実行委員長の候補者案として、以下4名を推薦することが説明された。なお、今井靖氏は非会員であるため、本学会に入会していただくかあるいは同一施設に所属する本学会会員に、シンポジウム実行委員長を担っていただくことが議論され検討することとなった。その他開催地等については全て了承された。

平泉達哉（湖東厚生病院 薬剤科）秋田県

今井靖（自治医科大学附属病院 薬剤部長）栃木県

小坂信二（香川大学医学部附属病院 薬剤部長）香川県

大山要（長崎大学病院 薬剤部長）長崎県

また、2024年度の本シンポジウムの実行委員長候補者案として、次の2名の内諾を得ていることも説明され、本件についても了承された。

崔吉道（金沢大学病院 薬剤部）

賀川義之（静岡県立大学 薬学部長）

(11) 医療薬学学術小委員会活動の継続

齋藤理事より、学術小委員会の次年度活動の継続に係る医療薬学学術委員会での協議結果として、全5件の学術小委員会の活動継続が認められると判定したことが説明され、協議した結果、了承された。

① 2021年医療薬学学術第1小委員会

委員長：須永 登美子（昭和大学歯科病院）

研究課題名：「臨床業務における薬剤師による有害事象報告教育基盤の構築」

② 2021年医療薬学学術第2小委員会

委員長：渡邊 裕之（医療法人徳洲会福岡徳洲会病院）

- 研究課題名：「免疫チェックポイント阻害薬の他施設共同患者レジストリを用いた、免疫関連有害事象の早期発見に資する研究」
- ③ 2022 年医療薬学学術第 1 小委員会
委員長：鈴木 賢一（東京薬科大学）
研究課題名：「病院・薬局薬剤師がシームレスで行う、がん薬物治療の副作用マネジメント支援体制の構築」
- ④ 2022 年医療薬学学術第 2 小委員会
委員長：館 知也（岐阜薬科大学）
研究課題名：「WITH/POST 新型コロナウイルス時代のオンライン研修教育のあり方」
- ⑤ 2022 年医療薬学学術第 3 小委員会
委員長：矢野 良一（大阪医科大学）
研究課題名：「症例検討による省察の推進と教育への展開を目指した調査研究」

(12) 2023-2024 年度代議員選挙開票立会人の選任

百瀬副会頭より 2023-2024 年度代議員選挙開票立会人として松本洋太郎 氏（東北大学薬学研究科）を選任したことが説明され、協議した結果了承された。

(13) 第 1 回「日本薬系学会連合」設立委員会の概要

奥田監事より、本日行われた第 1 回「日本薬系学会連合」設立委員会で審議された議論、英文名、会員資格、会費、役員体制の各案などが説明され、当学会としては引き続き参画することが確認された。

(14) 厚労科研「患者・市民参画を推進しビッグデータを活用した高齢がん患者の在宅療養環境の実態と課題の把握、及び高齢がん患者のフォローアップ体制の構築に資する研究」への協力依頼

寺田副会頭より、厚労科研より「患者・市民参画を推進しビッグデータを活用した高齢がん患者の在宅療養環境の実態と課題の把握、及び高齢がん患者のフォローアップ体制の構築に資する研究」へがんの診療・支援に携わる多職種として、調査対象・内容・分析方法等に助言やパネルディスカッションへの参画依頼があったこと、協力する場合にはがん専門薬剤師認定委員会のメンバーを担当窓口となることが説明された。協議した結果、協力することが了承された。

(15) 厚労科研「小児・AYA 世代がん患者に対する長期生殖機能温存に関する心理支援体制の均てん化および適切な長期検体温存方法の提案に向けた研究」へ協力依頼

山本会頭より厚労科研「小児・AYA 世代がん患者に対する長期生殖機能温存に関する心理支援体制の均てん化および適切な長期検体温存方法の提案に向けた研究」へ協力依頼があったことが説明された。会員にどのような形でアンケートに協力をお願いするかについても協議し、当学会としてはがん専門薬剤師委員会の活動の一環

として取扱えるようであれば、会員に向けた周知に協力することとした。

(16) 年会費遡及納入の嘆願への対応（2件）

宮崎理事より、2021年度及び2022年度会費遡及に係る2件の嘆願についての説明があり、協議した結果、本嘆願を了承することとなった。

(17) その他

田嶋理事より、医療薬学誌の投稿数が少ない件について報告があり、投稿を増やすように周囲に促していただきたいこと及び改善するためのご意見をいただきたいとの説明があった。

本件について、教育的な観点から積極的に採択して受理していくことや査読時に投稿者名をブラインドにすることが必要ではないかとのご意見があった。また、JPHCS誌やインパクトファクターの高い雑誌などに投稿されてしまうなどの意見等もあり、学会としての投稿支援なども含めた検討を続けていくことが確認された。

3. 報告事項

(1) 2022年度本学会役員・委員の利益相反申告に係る確認結果の報告

濱浦理事より2022年度の利益相反申告について、利益相反マネジメント規程に則り利益相反マネジメント委員会において相反の状況を確認した結果、利益相反マネジメント規程第5条で定める10項目について、数名の利益相反の申告があったが、疑義もしくは社会的・法的問題に抵触するような重大な利益相反は認められなかつたことが報告された。

(2) 第32回年会の実施報告・収支報告（見込）

山本年会長より第32回年会の実施報告及び収支報告の見込みについて説明があった。

(3) 2023-2024年度代議員選挙被選挙人名簿

事務局より2023-2024年度代議員選挙被選挙人及び開票予定についての説明があった。

(4) 第33回年会公募シンポジウムへの演題登録（本学会委員会からの登録）

事務局より第33回年会公募シンポジウムへの演題登録として国際交流委員会、臨床研究推進委員会、がん専門薬剤師認定委員会、地域薬学ケア専門薬剤師認定委員会、薬物療法集中講義企画・運営小委員会より演題登録の手続きが行われたこと、また宮崎理事より地域薬学ケア専門薬剤師認定委員会でも登録を進めたことが報告された。

(5) 第2回がん介入症例の書き方スキルアップセミナーの実施報告・収支報告

池田理事より、第2回がん介入症例の書き方スキルアップセミナーの実施報告及

び収支報告の説明があった。

(6) JPHCS 誌 2022 年度年次報告

村木理事より、JPHCS 誌 2022 年度年次報告として投稿数が増えていること、採択率が 29% であったことなどが説明された。

(7) 文科省・薬学系人材養成の在り方検討会（第 5 回）の報告

奥田監事より、文科省・薬学系人材養成の在り方検討会（第 5 回）の議事内容について報告があった。

(8) 後援依頼への対応（3 件）

議長より、一般社団法人日本精神薬学会第 7 回日本精神薬学会総会・学術集会、一般社団法人 AYA がんの医療と支援のあり方研究会 AYA week 2023、令和 4 年度厚生労働行政推進調査事業費補助金（医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業）「地域における効果的な薬剤師確保の取組に関する調査研究」研究班第 2 回公開シンポジウムの後援申請があり、後援を承諾したことが報告された。

(9) 委員会報告

次の各委員会の開催概要が議事録にて報告された。

企画・シンポジウム委員会、医療薬学専門薬剤師認定委員会、がん専門薬剤師能力向上委員会、専門薬剤師認定試験小委員、JPHCS 編集委員会

(10) その他

矢野理事より、国際交流委員会で募集している 2023 年度海外研修等助成員への応募期限が 3 月 10 日であるが、現在応募がないため 9 月 29 日まで延長する予定であることが報告された。

以上をもって全ての議事の審議及び報告を終了したので、議長は 16 時 45 分に閉会を宣言し、解散した。